

みんなのぎかいだより

題字：鮫川小学校

4年 須藤 叶悠さん



12
月
定
例
会

鮫川村附属機関設置 条例など可決!

議案調査	4
一般質問に6議員登壇	5~11
ふるさと鮫川への想い	12

12月定例会の あらまし

12月定例会が12月13日から15日までの3日間の会期で開催されました。

第1日目に、一般質問を行い6名の議員が登壇し、農業担い手確保対策と認定農業者の現状や公共施設の集合用地、特定地域づくり事業協同組合制度についてなどを取り上げ、村政をただしました。

また、鮫川村附属機関設置条例、鮫川村議会議員及び鮫川村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例など8議案や、令和4年度補正予算8議案、村有財産の無償

貸付1議案の提案理由の説明がありました。

第2日目に、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会の合同で現地調査・議案調査を開き、議案を審議しました。

最終日に、審議した条例、補正予算等を含む17議案を原案のとおり可決しました。

また、本年2月1日に任期満了となる鮫川村選挙管理委員会委員及び補充員の選挙(指名)を行い、当選人が決定されました。

米価下落

物価高騰対策の支援を可決



主な条例改正

鮫川村附属機関設置条例

地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、今回新たに、村長及び教育委員会の附属機関の設置に関し必要な事項を定める。

鮫川村議会議員及び鮫川村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部改正

公職選挙法施行令の一部改正に伴い、公費負担の限度額を引き上げる。

	現行	改正
自動車借入(1日)	15,800円	16,100円
燃料費(1日)	7,560円	7,700円
ピラ(1枚)	7.51円	7.73円
ポスター(1枚)	525.06円	541.31円

職員の給与に関する条例の一部改正

県人事委員会の勧告に従い、給料表の改正及び期末・勤勉手当の支給率及び通勤手当の上限額を改める。

- ・月例給 若年層を重点において給料月額引上げ
- ・期末・勤勉手当 0.10月分引上げ
- ・通勤手当 上限
【現行】60,700円 【改正】67,900円

村有財産の無償貸付

「旧交流施設ほっとはうすさめがわ」の貸付先が、組織を法人化し、社名及び所在地を変更したため、改めて議会の議決を求める。

(変更)

鮫川村大字赤坂東野字葉貫71番地
株式会社 フランティアビューロー
取締役 星 真希子

鮫川村 選挙管理委員会 委員・補充員

(任期 令和5年2月2日
～令和9年2月1日)

◆委員

前田 榮
(赤坂東野・官代)

岡部 啓一
(赤坂西野・大塩)

矢吹 俊次
(赤坂西野・塩倉)

金澤 助右門
(青生野・世々麦)

◆補充員

金澤 一四
(赤坂中野・真坂)

鷺野谷 勤
(富田・反田)

生田目 邦一
(西山・大久保)

芳賀 正訓
(渡瀬・江電田)

ここに注目!

補正
予算
一般会計

農家の営農継続に 2,545

補正予算状況
会計別

会計別		補正額	補正後の予算額
一般会計		1億1,403万円	34億2,994万円
特別会計	国保	事業勘定	4億2,653万円
		直診勘定	6,808万円
	簡易水道事業	0	9,927万円
	村営バス事業	0	1,025万円
	介護保険	0	5億3,934万円
	学校給食センター	34万円	9,603万円
	後期高齢者医療	8万円	4,026万円

補正予算の主な事業(一般会計)

歳入	
新型コロナウイルス感染症 対応地方創生臨時交付金	2,890万円
新型コロナウイルスワクチン 接種体制確保事業	5,019万円
地域振興費寄附金	230万円

歳出	
総務費 積立金 (ふるさとづくり寄附金等)	201万円

衛生費	埴厚生病院救急医療 体制支援負担金	86万円
	新型コロナウイルスワクチン 接種業務大規模集団接種業務委託 (大規模集団接種実施場所 農業者トレーニングセン ター)	5,000万円

土木費	工事請負費 (菅ノ目地内河川護岸工事)	900万円
-----	------------------------	-------

歳出	
大豆収穫機購入費(1台)	58万円
元気な農業継続支援 事業補助金 154万円	
米価下落や肥料高騰の影響 を受け、水稻、転換作物を作 付けしている水稻経営体に 10aあたり500円を助成	
農林水産業費 特産畑作物栽培継続 支援事業補助金 31万円	
特産畑作物の栽培振興を図 るため、大豆又はえごまの作 付け面積に対し10aあたり 3千円を支援	
配合飼料価格高騰対策 事業補助金 2,360万円	
配合飼料の価格高騰の影響 を受けている畜産農家に1t あたり7千円を補助	

審議結果(条例・予算等)

○=賛成 ×=反対 欠=欠席

議案名	関根 浩治	森 隆之	遠藤 貴人	堀川 照夫	北條 利雄	関根 英也	前田 雅秀	前田 武久	宗田 雅之	議長
【議案第69号】 鮫川村附属機関設置条例	×	欠	○	○	○	○	○	○	○	—
【議案第70号】鮫川村議会議員及び 鮫川村長の選挙における選挙運動の 公費負担に関する条例の一部改正	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	—
【議案第72号】職員の給与に関する 条例の一部改正	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	—
【議案第77号】令和4年度 一般会計補正予算(第5号)	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	—
【議案第85号】 村有財産の無償貸付について	○	欠	○	○	○	×	×	×	×	○

※上記以外の提出議案は、全員賛成にて可決承認

議案 調査

提出議案を 徹底調査!



事業内容の説明を受けた合同議案調査

附属機関の設置に関する条例を制定
令和4年度一般会計及び特別会計補正予算
等を、総務文教・産業厚生両常任委員会で合同
調査しました。

産業厚生 常任委員会

問 道路等改良工事 900万円

答 西山字菅ノ目地内の河川護岸
工事に要するもの

問 庁舎空調設備改修工事
410万円の減額

答 事業の完了による減額

総務文教 常任委員会

問 スクールバス運転業務委託料
436万円

答 新型コロナウイルス感染予防のため
の運行便数の増加によるもの

問 職員等研修業務委託料
26万円

答 政策形成能力や問題
解決能力の向上のため
の研修に要する経費

問 ふるさとづくり寄附
金謝礼 68万円

答 ふるさと納税に対する
返礼品に要する経費

問 元気な農業継続支援事
業補助金 154万円

答 物価高騰により生産意
欲が減退している農家に
対する支援策

問 配合飼料価格高騰対
策事業補助金
2360万円

答 畜産農家に対し、配合
飼料の価格高騰分の一
部を補助

問 特産畑作物栽培継続
支援事業補助金
31万円

答 特産畑作物の安定供給
に資するための支援策

問 新型コロナウイルスス
ワクチン接種業務委託料
5000万円

答 大規模集団接種を行
うための経費



護岸工事がされる菅ノ目地内



改修工事が終了した庁舎空調設備



新機種が導入された大豆脱粒機

議員6人が登壇ズバリ!! 村政を問う!



P 6

北條 利雄

- 政策形成のプロセス
- コロナ終息後の施策
- 行政情報誌の改定



P 9

堀川 照夫

- 水稻農家の支援
- 畜産農家の支援



P 7

関根 浩治

- 農業の担い手
- 生命の安全教育



P10

遠藤 貴人

- 予防接種台帳の運用
- 特定地域づくり事業



P 8

前田 武久

- 公共施設の用地



P11

宗田 雅之

- 市街地の空洞化
- 空き家バンク

議事の進行



星 一彌 議長

一般質問は、議員の日常活動を通じて、住民の声や自身の考え方をもとに、村長、教育長などの方針を問うものです。鮫川村議会は、一人あたり90分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。

出席議員



前田 雅秀 議員



関根 英也 議員

欠席議員



森 隆之 議員



北條 利雄 議員

問

政策形成のプロセス (過程や経過)を問う

答

合意形成や政策決定の プロセスは重要である

質問

情報収集は、問題意識をもつところから始まり、政策形成の全ての段階で必要なもの。情報をもとに、問題意識を具体化させ対応方策を考えていくプロセスである。人口構造や少子高齢化の中で、活性化の起爆剤や切り札となり得るものであり、政策課題への形成が重要である。さらに地方自治法や条例などの根拠法規の遵守を問う。

答弁(村長)

「木を見て森を見ず」にならないように、常にバックキャスト(未来から現在に逆算)により将来のあるべき姿を目標にする。達成するために何をすべきか、何をしなければならぬかを考えて事業を展開する必要がある。政策決定に至るプロセスも大事にしたい。地方自治法や条例の遵守は当然である。

答弁(教育長)

教育政策は重要な分野。長期を展望し、時代の流れに沿った人材育成を進めることが求められる。具体的な方向性を見いだし計画案をつくる。地域住民に向けて意見を徴取すること、よりよい合意形成を図る。

残さない「暮らしやすい
鮫川村」を実現すること
が必要。様々な影響
と財政見通しの精査、
見直しの方向性を問う。

答弁(村長)

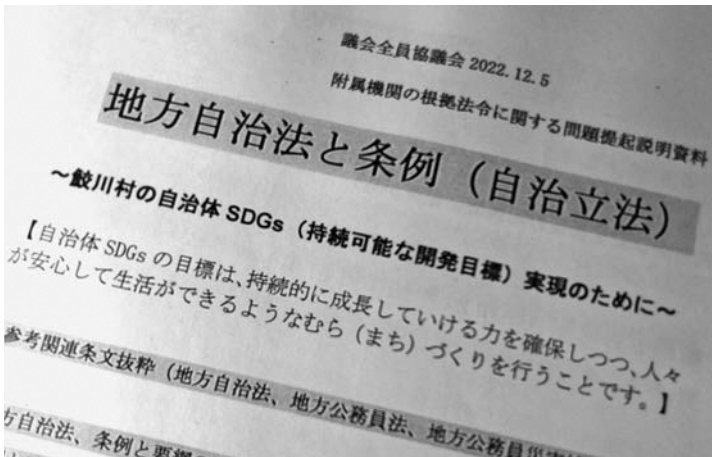
経済活動の停滞による村税収入の減少、外出制限などによる他地域との交流の分断に始まる交流人口の激減は、観光分野に暗い影を落とし、基幹産業である農業分野にも多大な影響を及ぼしている。疲弊感の残る社会活動や停滞している経済活動を逆手に取り、これまでの行政活動を振り返る期間、これからの活動を再び考える時期でもある。村民主体の村づくりを実現する事業方針と重点事業を明示した。

質問

「村民のまめな暮らしガイドブック」は、全世帯に配布されている行政情報誌。住民の利便性向上に貢献し、地域の発展と活性化を推進するもので、高く評価できる。情報豊かな内容の改定時期は、作業も含めて大変な苦労がある。社会情勢の変化や事務事業の行政施策の内容変化に対応したものに改定されていないものがある。改善の必要があるのではないかと、改善方向を問う。

答弁(村長)

村の施策を盛り込んだ便利帳として発行。改定に向けて内容の精査を始めている。住民サービスの基本はきちんとお知らせをして説明責任を果たすこと。村民が求めるときに、こちらをどのように見ているかが基本。その位置に立ち返って、分かりやすい説明と住民サービスを高めていくことを徹底する。



鮫川村のSDGs(持続可能な開発目標)への提起資料

質問

コロナ禍は臨界点を超え、雪崩を打って変わる。「新しい日常」は、時代をどう生きるかが課題。急激な社会の変化や価値観の変容の結果「人と人とのつながりが断ち切られた」社会としてはならない。どんな社会においても誰一人、どの地域も取り

行政活動を振り返る期間、再び考える時期にある

ウィズコロナ(共存する世界)・アフターコロナ(終息後の世界)を見据えた施策を問う

答

お知らせと説明責任を果たし、住民サービスを高める

問

「村民のまめな暮らしガイドブック」の改定のあり方を問う



関根 浩治 議員

問 農業担い手確保対策及び 認定農業者の現状を問う

答 担い手の要望や各種施策検討する

質問

村の重要な産業は農業であり、農業の担い手を確保するための対策や認定農業者の現状について、コロナ禍とロシアのウクライナ侵攻の影響で、農業資材価格高騰の中、経営改善計画実現が難しい現状での再認定についてを問う。

答弁(村長)

国の支援制度の農業次世代人材投資事業を活用した新規就農者支援で、就農直後の経営確立支援資金の交付、関係機関からのサポート支援、次に地域を支える農業者等確保支援事業で、技術向上支援研修や就農相談・新規就農者サポート活動を実施する。村としては若手担い手農業者の懇談会や先進地研修の実施。その他、村内の認定農業者の現状は、個人・法人合わせて28名で、令和3年度中の再認定11名で、所得目標等の目標要件は全員未達成でした。

再質問

担い手や認定農業者の確保対策を問う。

答弁(村長)

農機具や農業施設の再利用斡旋提案、楽しい農業経営やスマート農業の実現、地域へ向く行政対応、担い手へのパートナー紹介や出会いの場を作る事。その他村づくり、人づくり事業での勉強や先進地視察研修等の予算措置等や現況を把握し支援制度の充実を図る。

再質問

令和5年度農業部門の予算措置についてを問う。

答弁(村長)

新年度以降の、農業現況は、大変な状況にあり現場の状況把握し、農業施策の組み立てを検討し農業関係者、団体等との協議で国の支援制度を鑑み進める。

学校教育における生命(いのち)の安全教育と、タブレット端末の活用を問う

問

発達段階に応じた安全教育実施と、タブレット活用は3学期から

答

子供たちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、生命(いのち)の安全教育を推進する中、本村の学校教育現状を問う。

再質問

また、小・中学校の児童・生徒へ一人一台のタブレット端末導入により、コロナウイルス感染

症者等への自宅待機中の、タブレット端末を遠隔授業等に利用しているか問う。

答弁(教育長)

小・中学校では、学級活動・道徳、保健体育などの授業で、性に関する指導や命を大切にすることを発達段階に応じた計画的実施、小学校5・6年生、中学生へは、村等の協力を得て思春期保健講座、助産師・医師等を講師に、性と命の教育の充実に務めている。さらに、SNS等を通じて、性被害に遭わないよう、警察署員等の外部講師で児童・生徒・保護者へ安全教育に努めている。

再質問

生命(いのち)の安全教育について、児童、生徒のみならず、保護者や地域等への啓蒙活動や相談窓口、関係機関との連携について問う。

答弁(教育長)

保護者への啓蒙活動は、生命(いのち)の安全教育に関する指導内容、自宅へは指導内容等の送付したい。地域の方々への啓蒙活動は、教育を考える会等で積極的に機会を設け安全教育の充実に努め相談窓口や、関係機関との綿密な連絡体制の構築に努めている。

再質問

タブレット端末を活用したオンライン授業の問題と、悩みを問う。

答弁(教育長)

オンライン授業について、子供たちへ定着しているか、また家庭環境も違う中で、同様な授業が実現できているか、受ける態勢・心構え等の課題解決が必要だ。



鮫川小学校

鮫川中学校

生命(いのち)の安全教育実施学校



前田 武久 議員

問

中心地集合施設用地確保の計画を

答

今後協議を重ねて参りたい

質問

公共施設の集用地について

山間地に位置する我が村は平地のほとんどが貴重な農地として利用され公共用地の確保が困難で、役場庁舎から施設が点在しているため、行政事務効率も悪いと思われる。当初建設された施設も古く、各学校をはじめ耐用年数に達する状況にある。過疎化人口減少、少子高齢化、一人暮らしが多くなり、限界集落も危惧される。今後早いうちに村民の利便を考慮し、できるだけ村の中央、村民の望む集合施設を構築できる用地の確保が必要と思うが村長の所見を伺う。

答弁(村長)

議員質問のとおり村の公共施設は中心部にあるものの、ある程度の距離が利便性や行政事務の効率は高いものではない。

今後一層の高齢化、過疎化を考えれば公共施設の集約は必要にな

ると考えている。

また、令和5年度においての重点事業として施設ごとの整備や解体も含めた年度別の管理計画策定を指示したところであり、計画の中で公共施設の集約、用地の選定は個別事項として特別に指示をしており、今後議員、区長、有識者の方々に検討協議をいただく方向で進めて参りたい。

再質問

わが村では小中学校が数年のうちに耐用年数を迎える。幼保小中一貫校の検討もされ、公共施設の集約化、検討に入れば役場庁舎を中心とした範囲での用地確保が必然となる。事業着手前の準備期間に要する現地測量調査、基本計画作成、予算要求そして事業実施まで、少なくとも5年位の期間を要するものと考えている。難題の用地取得に2年要すると小中学校舎改築には余裕がないと思うがどうなのか。

答弁(村長)

庁舎以外の各教育施設の耐用年数による建設は待たなし。公共施設計画は前もって10年20年のスパンの中で考えるべきで、小中学校そして雨漏りが始まっている公民館等。複合施設の建設を視野に入れながら、議員指摘の用地確保が大事。どの位置が適切かも含め、また課への指示、検討された総合管理計画に基づき基本計画、たたき台をつくる作業を次年度着手する予定である。

議会、学識者、村民からの広聴と検討が必要である。財政計画、補助事業の調査等へ次年度から取り組む予定である。

再質問

次年度から長期計画を着手すること。

まず、学校、こどもセンター、公民館、体育館、災害時に対応できる防災避難所兼多目的広場、遊園施設、プール、村民ホール、今後

危惧される限界集落からの移住できる公営住宅、直売所等の集合施設の建設可能な構築を示すべきであり、附属機関の設置を図るべき。

答弁(村長)

耐用年数内に教育施設の新築を要し、事業執行するには政策形成、手順が大事である。まずは素案を作る。附属機関や議会の全協を重ね、財源の調達、活用を図り投資効果の高い効率の良い提案により議会の承認を得ることが必要である。一ヶ所に集約することは中心地の賑わいづくりのためにも必要と考えている。議員や各方面からの提案・意見を頂戴しながら新年度以降、着手、承認いただき建設計画のたたき台をつくっていく。



堀川 照夫 議員

問 水田の賃借料の支援策は

答 今後検討していきたい

質問

水田を耕作する人も年々高齢化が進み耕作放棄地が増えている。そのような状況の中、水田を借りて水稲耕作農家に支援策は。

答弁(村長)

水田の賃借に特化した農家支援策は、持ち備えてない。しかし、

今後の課題と認識している。若手農業者の意見も聞きながら農地の整理、利活用に総合的な検討を進めてまいりたい。

再質問

耕作放棄地を基盤整備して貸付することは考えているか。

答弁(村長)

村では暗渠排水の補助事業導入も独自にしているが、耕作放棄地の解消の耕作条件を緩和する整備で今後必要となると思う。耕作放棄地を増やさない施策を今後検討すべき事項と考える。

再質問

一反歩当たりの補助金の考えはあるか。

答弁(村長)

それも含めて今後検討していく。

問 基礎雌牛導入の支援策は

答 今後検討し支援策を講じる

質問

和牛導入に、現在3万円を助成している。系統の良い雌牛を導入するには、80万円以上となるが、今後助成額の増額を検討していただきたい。

答弁(村長)

村では現在畜産クラスター事業の検討を進めている。今月20日に村内の畜産農家対象としたクラスター計画ばかりでなく、畜産農業を取り巻く問題、今後の課題を検討する勉強会を開催するため準備を進めている。畜産クラスター事業に付随した生産力強化等の補助事業等関連もあることから、今後質問の内容も含めて村の畜産振興

を総合的に検討する考えでいる。

再質問

鮫川村でも自家保留牛にも補助金の考えはあるか。

答弁(村長)

導入頭数が非常に多いので、支援策はどの金額が妥当か、今後検討し支援策を講じる考えである。



村内全域にみられる耕作放棄地



本宮市場での指定保留牛

次のページは

一般質問

遠藤貴人議員・宗田雅之議員



遠藤 貴人 議員

問

有効性や安全性の検証には 長期間の記録保存を

答

予診票の紙媒体も含めて 接種記録を保存する

質問

予防接種法に基づき、接種を受けた人の住所・氏名などを記載した予防接種台帳を作成し、5年間保存しなければならないとされているが。

答弁(村長)

接種が済んだ個人のデータを国のワクチン接種記録システムへ登録し、各個人のワクチン接種記録や健康診断結果などを一括管理している。

再質問

村では文書管理規定によつて5年間の保存期間となっているようですが、これを延長することは可能か。

答弁(村長)

接種記録システムの中に入れたデータは残しておきたい。

再質問

厚生労働省が発表したコロナワクチン接種後1908人死亡という数字がある。客観的にどう感じるか。

答弁(村長)

その数字を知ったのは初めて。数字を聞いて驚いた。

再質問

本村で、重篤な副反応の報告はあるか。

答弁(住民福祉課長)

そういった報告はない。

再質問

東白川地方町村会等でワクチンの副反応に悩んでいる方が議題になったことはあるか。

答弁(村長)

議題になったことはない。

再質問

国内の超過死亡数が増加している。過去5年間で本村の死亡者数の推移は。

答弁(住民福祉課長)

平成30年64名、令和元年59名、令和2年53名、令和3年65名、令和4年11月末で60名。

特定地域づくり事業協同組合とは

地域事業者の事業の維持を推進する

質問

持続可能な取組の実現として、特定地域づくり事業協同組合の立ち上げが提案された。以下の点を伺う。
①事業協同組合が環境公社まで発展した場合、公

社1つになるのか、公社と組合2つになるのか。

②環境公社に土木施工管理技士を1名置く必要があるということは、業務が村内の建設業者と競合しないか。

答弁(村長)

③組合のメリットとして求人の手間が減るとあるが、村内事業所の求人情報を村のホームページと連動させることはできないか。
④農業に特化した組織の立ち上げは検討しているか。

答弁(村長)

①現時点で未定。
②民間にお願いできることは、民間にお願いすることが基本。
③組合で派遣する職員を募集する際は、村ホームページや広報紙において公報する。
④農業者も組合員になることが可能。

再質問

広報さめがわ11月号に学校給食の特集があった。医療も食事も本質的に同じで、どちらも重要。無化学肥料や減農薬、こうした農業を

再質問

広報さめがわ11月号に学校給食の特集があった。医療も食事も本質的に同じで、どちらも重要。無化学肥料や減農薬、こうした農業を

奨励していくことも一つの手段と考える。

答弁(村長)

安全性が高い農畜産物を、広報していかなければ。

再質問

一定の基準を設けながら、それらの栽培基準を満たした農産物を村が買い上げてはどうか。子育て世帯や一人暮らしの高齢者などにお配りすることで、買上げた農産物の出口は確保できるはず。

答弁(村長)

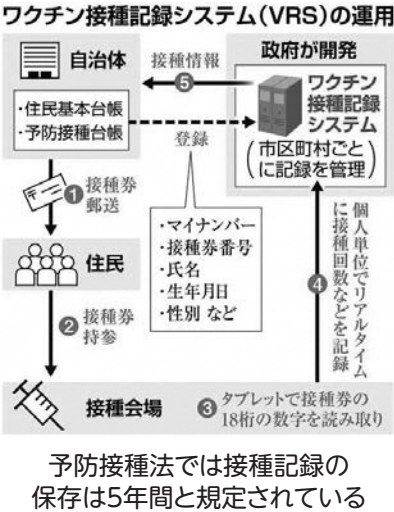
特別栽培米を村が保有して配布するのは、魅力ある考え。

再質問

山の奥に存在する水田は放棄する。その代わりに、主要道沿いの水田は耕作して田園風景を保つ。そういったエリア分けのよいものが必要では。

答弁(村長)

美しい村づくりに特化した事業を創設しながら、計画的に地権者との協議を重ねる。





宗田 雅之 議員

問 中心市街地の空洞化策を問う

答 年次計画をもって推進していく

質問

空き家、空洞化が進む中、中心市街地の現状は、近い将来を考えると深刻であり、村の中心地が限界集落になり得る。この問題は、何度も提起しているが、一向に村の方向性が見えてこない。現況を伺う。

答弁(村長)

中心市街地の集住を促す施策は、効果が表れなければ都市部への人口流出に繋がり、より厳しい過疎化へ進むとの識者の意見もあり、十

分な議論と検討が必要と考える。今後は中心地域の活性化、公共施設や用地の問題を含めて明確化し、有識者会議やワークショップなどを開催し、住民参加の下で、魅力ある地域づくりに繋げていきたい。

再質問

以前の答弁で「職員の横断的な連携と住民参加の活性化協議会を開催し、活性化に関わる拠点整備計画を策定した」との答弁であったが、計画の中身を示して頂きたい。

答弁(村長)

今年度の施政方針の中で、どの様に進めるかは謳っているが、さらに次年度の事業方針の中で、村づくり、人づくりの精神と総合的公共施設の中長期計画の着手を指示している。今後も関係機関と協議し住民参加の計画を策定する。

再質問

計画を持つて政策を進めるのは解るが、現状

の中心市街地は年々高齢化が進み、空き家が増加し荒廃が進んでいる。村の魅力は美しい景観であり、人と人の繋がりにあると思うが、現在、中心地の活性化の動きが見えてこない。早急な手立てが必要では。

答弁(村長)

どのような街づくりにするかというブランドデザインが必要であり、その中で、中心市街地の活性化のためには何が出来るのかということも併せて検討していく。

問 空き家対策を伺う

所有者に管理、取り壊しをお願いしていく。

質問

空き家が年々増加する中、所有者の確認、所有者が確認できた中で対応と空き家バンクの現状を伺う。この空き家対策の問題も何度か質しているが、動きが感じられない。

答弁(村長)

個人の資産であるので、相談があった場合には広報などで管理や取り壊しをお願いをしている。他の町村では、危険度の高い空き家などを行政代執行により取り壊しを行っている例もあるが、所有者からの負担金がなかなか納入されない状況である。今後は施策を進める中で、財政状況を鑑み、方向性を検討する。空き家バンクの登録は、物件数は5件、利用登録者が24名、契約件数は2件となっている。

再質問

空き家の管理は所有であるが、管理が出来ているか否かは、空き家バンクに登録されている以上行政で監視が必要と思うが。

答弁(総務課長)

基本的には、現状での引き渡しということで周知しているので、管理的なことではない。

再質問

空き家物件を見にきた方が、建物の中や周辺がきちんと整理されてなかったら借りないのでは。

答弁(村長)

今後は、移住、定住の充実を図るため、移住コ―ディネータを設置したいと考える。来村した方には丁寧に対応していく。

再質問

今にも倒壊しそうな建物が道路沿に多く見られる。対応しないままに建物から落下物があり、通りすがりの人、車などに損害を与えた時に、地権者の支払う能力によっては、損害をうけた方が泣き寝入りとなる。そのためにも早急な対応が必要では。

答弁(村長)

地権者の責任において管理、解体して頂くのが基本であるので、現状を把握して頂いて処置を根気強くお願いしていく。



問われる中心地の対応

次のページは

ふるさとへの想いシリーズ④⑤です

ふるさと鮫川への想い シリーズ④



2022年12月 企画に携わったクリスマスコンサート

森 泉さん

宮城県仙台市在住 (大字赤坂東野字楢久保出身)

◆プロフィール

【生年月日】 1980年11月27日

・福島県立白河高等学校 卒業

・東北学院大学 卒業

・フリーランスとしてイベント制作・運営業務に従事

・株式会社アルパリンクス 所属

株式会社ジェイアール東日本企画 出向中

【趣味】 食・酒・旅行・芝居・伝統芸能・アウトドア・スポーツ全般



2019年「うまいもの祭り」商工会青年部の仲間と

懐郷

早いもので鮫川村を離れて27年が過ぎてしまいました。

中学卒業後、高校進学と同時に一人暮らしが始まりました。「赤坂館の山桜」から、「西秀麗の那須の峰」に景色は変わりましたが、教室から見える雄大な那須の山々と県南から集まりし猛者達に圧倒されながら3年間で過ぎました。入学当時の白河高校は男子校で、気高き男臭さとともに青春を謳歌していたと記憶しております。

大学に進学してからは、いわゆる「社会勉強」の方に力が入り、残念ながら学問における飛び級はありませんでしたが、多くの社会勉強を「飛び級」で経験できました。その当時からGW・お盆・正月、田植え・稲刈りと定期的に帰省はしておりました。

社会人になってからは車で帰省することが多くなり、頻度も月1回程度に増

えました。東北道「須賀川IC」で降り南下します。鎌田八幡宮のところから国道349号に入ると更に心も高揚します。鮫川の代表的な観光地「強滝」は季節ごとの彩を見せ、その「景色・空気・香り」は大きな魅力です。コロナ禍で帰省の機会も減りましたが、スケジュールが決まると、お土産や同級生との予定を思案するのも実に楽しいものです。

私の同級生は事業者が多く、家業を継ぎながら鮫川のために動いている姿を見ると、私もその一助にという気持ちがあります。(正直申し上げると仲間たちとの大宴会も理由ではありませんが…)

さて、仕事はジェイアール東日本企画という総合広告代理店に出向し4年目を迎えます。業務内容は広告業全般はさることながら、ソーシャルビジネス領域の案件も多く、自治体と組んだ事業も数多く手掛けております。常に思考に置いているのは「ウィーク

ポイントも捉え方ひとつで強みに変えられる」という事です。「何もない」がきつと大きな資産となるべき時は近いでしょう。それまでもう少し外で研鑽(けんさん)を積み、「いつしか故郷に何かを」というのが直近の目標です。さあ次の帰省の計画を立てよう。また鮫川にて。

編集後記

早いもので新年を迎えてはや1か月が経ちました。世の中は、徐々に経済活動が緩和されましたが、依然としてコロナの終息が見えないままであります。さて今年4年に一度の統一地方選挙が多く行われます。わが村も4月に議員選挙、8月に村長選挙が予定されております。村も人口減少に伴い少子高齢化問題・福祉や教育の問題・空き家対策・農家後継者対策など様々な課題が山積しております。村民が幸せだと感じられる村づくりを目指して引き続き議員一同頑張りますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。(広報編集委員)